NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用した「討論ゲーム」をしよう！

2．学校名

大分県立大分豊府中学校

3．実践者名（代表者名）

小坂吏香

4．学年

第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

コミュニケーション国語　３９名

6．単元（本時の学習課題）名

ディベート風「討論ゲーム」をしよう！

7．目標(狙い)

新聞記事からの幅広い情報収集と必要に応じた取捨選択をさせるとともに、根拠を提示して考えを説明させることで、一つのテーマについて多角的なものの見方の必要性を理解させる。

8．評価の視点

多角的な見方や考え方ができたか。主張に必要な情報を取捨選択できたか。根拠を提示して考えを説明できたか。仲間と協力できたか。効果的な質問ができたか。公平・客観的に勝敗を判断したか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

・「修学旅行新聞を作ろう」（６時間）
・「学校紹介新聞を作ろう」（６時間）
・「ディベート風「討論ゲーム」をしよう」（３時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「討論ゲーム」のやり方を知る。（1時間）
②「討論ゲーム」の各テーマについて自分の意見をまとめる。（1時間）
③各班で情報収集及び発表準備を行う。（2時間）
④討論ゲーム（3時間）

※留意点
・班分けはくじ引きで行う。
・主張の際には、必ず新聞記事を根拠として提示させる。
・時間外の活動（自宅での情報収集・班ごとの自主的な作戦会議等）の必要性を理解させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

回を追うごとに上達していった。プレーヤーの発表はもちろんであるが、特にフロアの上達はめざましく、鋭い質問にプレーヤーがたじろぐ場面もあり、ゲーム終了後に行う「立場決定の理由」発表の場面では、「効果的な記事提示や質疑応答での落ち着いた態度、主張の展開のうまさによって決めた」という批評も聞けた。

12．成果と課題

根拠を提示することで自分たちの考えを論理的かつ効果的に説明することができ、強い説得力を生むということを実感できていた。非常に意識的に考えを広げようとする様子が窺われ、テーマについて多角的な見方や考え方を持つことの必要性について理解していた。しかし、主張に必要な情報をさまざまな記事から取捨選択することができていないことは今後の課題である。直接的な記事の探索に終始し、期待していた「間接的な記事から事象と事象とのつながりを発見し理解する」ということが実践できていた班は少なかった。また、他教科の活動におけるスキルの共有や活用が十分にできていない点も克服すべき課題であろう。